

・

東京上空を飛行する日航機の窓から、夏空に浮かぶ富士山が姿を現しました。手前には関東平野を一面に覆う白い雲が広がり、その向こうに日本最高峰の山頂だけが静かに顔をのぞかせています。機体は高度約 4,000m を飛行しており、眼下の雲を見下ろす位置から撮影した一枚です。夏特有の湿った大気の影響で富士山はやや青くかすんで見えますが、その堂々とした円すい形は遠くからでもひと目で分かります。

手前に広がる雲は、低い高度に層状に連なりながら、丸みを帯びた雲塊が連続して広がる**層積雲（そうせきうん）**と考えられます。層積雲は、雲底がおおよそ数百 m から 1km、雲頂でも 1~2km 程度に達する低層雲で、夏の関東平野では比較的良好に見られる雲です。一つ一つは積雲のようなふくらみを持ちながらも、広い範囲でつながって層をつくるのが特徴で、航空機から眺めると、まるで綿を一面に敷き詰めたような美しい景観になります。

この写真は、富士山の標高 3,776m が、関東平野の低層雲よりはるかに高い位置まで達していることを実感させてくれます。眼下の雲海と、その上に浮かぶような富士山という組み合わせは、地上からはなかなか見ることのできない、航空機ならではの眺めです。東京上空を飛行するわずかな時間の中でも、大気の構造や雲の種類、そして日本を代表する名峰の雄大さを同時に観察できる、空からの自然観察の魅力を感じさせる一枚といえるでしょう。

(2026 年 7 月上旬／日航機機窓)

